

圭陵会FAXニュース

発行所：岩手医科大学圭陵会
 発行人：石川 育成 編集人：前沢 千早
 連絡先：TEL 019-624-8386 FAX 019-624-8380
 E-mail: info@keiryokai.gr.jp

第31号内容

- ・岩手医大に米研修生
ハーバード大から受け入れ開始
- ・歯学部改革相互に学ぶ
米と深まる歯学交流 ハーバード大生
「医療の違い学びたい」
岩手医大で研修開始

岩手日報 H25. 12. 11

岩手医大に米研修生

ハーバード大から受け入れ開始

岩手医大(小川彰理事長)は11日から、米・ハーバード大の学生3人を研修生として受け入れる。歯学部改革に向け2011年から提携しており、研修生受け入れは初めて。交流が本格的に始まることで、学生が多様な歯科治療の在り方への意識を高める効果を期待する。

ハーバード大歯学部
の3人は18日まで滞在し、矯正やインプラント治療、小児や障害者向けの治療などを学ぶ。両大の学生が自身が携わった症例を発表し合い、治療の進め方などについて討論する機会も設ける。

岩手医大は提携後、ハーバード大を参考に独自の教育システム構築を進めている。各学年10人程度がグループをつくり、指導教員の下で上級生が下級生を

歯学部改革 相互に学ぶ

指導する制度を導入。学生が治療に携わる機会も増やした。

両大の人的交流も進み、これまで岩手医大の学生3人、教員50人以上がハーバード大で研修した。同大から講師を招いての特別講義なども行っている。

今後は学生、教員の同大への研究留学を推進する一方、研修受け入れを順次行う計画で、来春にかけては計9人が来日する予定だ。被災地での医療活動を考えるプログラム提供も検討する。

岩手医大の三浦広行歯学部長は「国が違えば治療の考え方も違う。両大の学生が互いに良いところを吸収することで、将来さまざまな患者を診る時に経験が役立つと思う」と意義を説く。

岩手日報H25.12.12

米と深まる歯学交流

ハーバード大生

岩手医大で研修開始

米国マサチューセッツ州ボストン市のハーバード歯学部学生3人は11日、提携している盛岡市内丸の岩手医大(小川彰理事長)歯学部で研修を始めた。18日まで日本の歯科治療を学ぶほか、双方の学生らが関わった症例を発表し合い、研さんを深める。学生たちは「米国と日本の歯科医療の違いを学びたい」と意欲的で、関係者は交流がもたらす今後の成果に期待する。



「医療の違い学びたい」

訪れたのはバーナーにいるファンクさんはド・ポーバックさん(29)、リサ・スーさん(25)、ピーター・ファンクさん(26)。

岩手医大の三浦広行歯学部長ら教授陣約10人が出席し受け入れ式を行った後、田中光郎教授(小児歯科)が同歯科医療センターを案内。3人は4年生の人工歯根(デンタルインプラント)技術実習で、学生約60人が模型に人工歯根を埋め込む穴を開ける作業を見学した。

今後、矯正や歯科麻酔、小児、障害者への治療などを研修する。ポーバックさんは「インプラントを利用した矯正や新しい技術を学びたい」と意気込み、口腔外科を志望し

「日本の口腔外科の取り組みを参考にしたい」と熱心だった。スーさんは「両国の歯科医療の違いのほかに、日本語も覚えたい」と笑顔を見せた。

岩手医大は歯学部改革として2011年にハーバード大と提携し、これまでに学生3人と教員50人以上がハーバード大で研修している。講師を招いた特別講義なども開いたが、研修生を迎えたのは初めて。来春にかけて計9人が来日する予定だ。

3月にハーバード大で研修した菅原志帆さん(25)＝歯学部6年＝は「世界で歯科医療を学ぶことや働くことが

可能だと分かり、視野が広がった」と振り返る。松本誠野さん(25)＝同＝も「国境を越えた意見交換は学ぶ意欲を高める良い機会だ」と歓迎する。

小川理事長は「一緒に学ぶことは本学の学生の刺激になる。互いの長所を見つけ合っほしい」と期待する。

人工歯根の技術実習を見学する(右から2人目から)バーナー・ド・ポーバックさん、ピーター・ファンクさん、リサ・スーさん

圭陵会FAXニュース
 圭陵会ホームページよりPDF形式でダウンロード頂けます。
 ■圭陵会ホームページアドレス <http://www.keiryokai.gr.jp>